

資 料 提 供	
平成 2 8 年 5 月 6 日	
担当課 (担当)	埋蔵文化財センター (高橋)
電 話	(公用携帯) 090-1182-5125

【鳥取県立中央病院建て替えに伴う発掘調査】

鳥取市「^{あきさといせき}秋里遺跡」で「焼失建物」やウマを埋納した穴などがみつかりました

鳥取県埋蔵文化財センターでは、県立中央病院の病棟建て替え工事に伴い、「秋里遺跡(松下地区)」の発掘調査を昨年 9 月から実施しています。

「秋里遺跡」は全国的にも著名な弥生時代後期から古墳時代前期の遺跡で、今回の発掘調査は遺跡の西端に当たる場所で行っています。

この度、その全体の状況がほぼ明らかになってきたことから、下記のとおり記者公開及び現地説明会を開催しますので、ぜひ取材いただきますよう御案内します。

記

1 記者公開

- (1) 日 時 5 月 1 2 日 (木) 午後 1 時～午後 2 時
- (2) 場 所 「秋里遺跡」現地 (鳥取市江津県立中央病院内、裏面を参照ください)

2 現地説明会

- (1) 日 時 5 月 1 4 日 (土) 午後 1 時 3 0 分～午後 2 時 3 0 分 (小雨決行)
※開催の可否は、当日の午前 9 時に埋蔵文化財センターホームページと facebook に掲載します。
- (2) 場 所 「秋里遺跡」現地
- (3) 駐車場 遺跡に隣接する県立中央病院駐車場を御利用いただけますが、駐車台数が限られていますので、なるべくお乗り合わせの上お越しく下さい。
※現地説明会の情報はホームページ (<http://www.pref.tottori.lg.jp/maibun/>) と facebook でもお知らせします。

3 調査の概要

- (1) 調査期間 平成 2 7 年 9 月 1 日から平成 2 8 年 7 月 3 1 日 (予定)
- (2) 調査面積 8,178 m²
- (3) 遺跡の概要
 - ① 平地建物と考えられる古墳時代前期 (1,700 年前) の焼失住居が出土
床面に炉と中央ピットをもち、土器がそのまま残されていた。炭化した建築部材が部分的に残り、特に東辺と南辺のものは板壁の可能性もあり。また、周囲には壁を立てたと考えられる壁溝が設けられている。地面を掘りくぼめて床を設ける堅穴建物とは異なり、地面を床に利用して壁を立てた平地建物とも考えられる。平地建物の焼失住居とすれば、県内では初の出土例で、全国的にも珍しいもの。
 - ② その他
鎌倉時代 (約 800 年前) 頃の土坑 (穴) からウマの骨が出土。1 頭分とみられ、解体された状態で、直径 125 cm 深さ 110 cm の穴の底に埋納。この時代のウマの特徴や利用方法、現代のウマとの相違や系統を研究するうえで重要な例なので、今後、鳥取大学農学部共同獣医学科と共同研究を行う予定。

